

ルとしての立場から見ると、良く検討し結論を出すべきと思えた。

参考文献

- 1) F. スティビッツ：現在の第一線級国際試合における時間制限に関するレポート，「バレーボール」(財)日本バレーボール協会，9月号，p.p. 16-20，(1974)
- 2) 島津 大宣：六人制バレーボールの競技時間短縮についての考察，日本女子大学家政学部紀要，第22号，p. 223-231，(1975)
- 3) Y. Nisiwaki：'Report on Timed System Test (FIVB Report)', Japan Volleyball Association, (1997)
- 4) M. Trolle：'The Rallypoint-System', THE COACH-FIVB, No. 4, p.p. 23, (1997)
- 5) 原田 智：国際男女バレーボール試合のゲーム分析の一考察，立正大学文学部論叢，第106号，(1997)
- 6) 藤原 徹：バレーボールの勝敗を左右する要因と得点の取得方法について，仙台大学紀要，第26集，p.p. 1-9，(1995)
- 7) 相良 哲視：大学女子バレーボールリーグ戦におけるラリーポイント制の分析，関西外国語大学研究論集，第54巻，p.p. 457-466，(1991)
- 8) 佐和 方元，島津 大宣：国際試合における審判員のコンディションについて，「バレーボール」(財)日本バレーボール協会，2月号，p.p. 7-9，(1974)

(d)国際審判員等からの検討

佐和ら⁸⁾は審判前と審判後では、若干の血圧の減少、心拍数の増加、全身反応時間の遅延を報告しているが、2時間前後の試合時間では、緊張度も高く、判定に対する反応に誤審が無いとも言えず、試合方式が複雑になればなるほど誤審も多発する可能性が高く、単純化が必要である。その点本大会の25分併用制は、セット終了に対して単純化されておらず、やや問題があり検討が必要のように思えた。試合時間の短縮に対しては賛成と言えよう。また試合を運営する上において、設備、人材等がより多くなると共に、どのレベルまでに適用するのか。国内試合では、Vリーグ等、大学では年2回のリーグ戦（どの部まで適用するか）、高校では、選抜大会や全国大会、中学では全国大会、の如く適用範囲をどこまでにするのが大きな問題であると思われた。

バレーボール競技では、多くの試合およびセットにおいて、逆転はあまりない競技ではあるが、本ルールの25分併用制となると益々逆転のケースは減少するであろうと思われた。一方10回以上のラリーポイントのセットでは、サービスポイント制よりも、遥に迫力に満ち、観衆を魅了した面もみられた。

6 ま と め

試合時間短縮の一方法として、「25分併用制」のルールで男女各々15試合が実施され、25分以内で1セットが終了した試合数では、男子で6試合（40.0%）、女子で9試合（60.0%）であった。またセット数（4セット目まで、男子チームの総セット数54セット、女子チームの総セット数51セット）では、男子で17セット（31.5%）、女子で36セット（70.6%）であった。本「25分併用制」ルールにおいて、男子チームでは、多くのセットでラリーポイントになり、セットが終了していたのに対して、女子チームでは、多くのセットでラリーポイントにならず、セットが終了していた。今後「併用制」を採用するならば、テクニカル・タイムアウトやノーマル・タイムアウト、メンバーチェンジ等の時間はセットのタイムから除外し、男子チームでは「30分併用制」、女子チームでは本ルールの「25分併用制」がよいのではないかと思われた。しかし、国際審判員の立場から見ると、「併用制」では、セットを終了させる要素が複雑で、セットによっては問題点も多く出現する可能性も高く、単純化した方が良いように思えた。それには、「サービスポイント制」で工夫するか、「ラリーポイント制」で工夫するか、二者択一であり、(財)日本バレーボール協会が提案した、「ラリーポイント制」もその一案と思われた。世界のスポーツの中のバレーボー

点時でリードし、25分以内でそのセットを勝利していたセットは35セット、68.7%であった。この様子からみて、「10得点時」男子チームではこれからが勝負時、女子チームではすでに形勢がほぼ確定している時となっている。10点の得点時のタイムアウトは、コマーシャルタイムとして容認したとしても、5点の得点時のタイムアウトは、必要はなく、監督の任意時のタイムアウトとすべきであると思われる。男子チームではラリーポイントになるセットが多い傾向にあることから、5点の得点時のタイムアウトの代わりに、ラリーポイント後、チーム1回のタイムアウトとした方が最適ではないかと思われた。(25分までにチーム2回まで、10点の得点時、ラリーポイント後チーム1回までの各タイムアウト)また本大会で、20分経過するまでは、タイムアウト、メンバーチェンジ等全て20分の中に含まれていたが、バスケットボール方式のタイムアウト、メンバーチェンジ等は、25分から除外した方が最適と思われた。男女チーム共に、ラリーポイントに入るセットがやや減少(特に女チーム)するものと思われた。

(b) チェンジコート

各セットの終了後、毎回チェンジコートが必要かどうか。テニスの試合では、1, 3, 5, ……の奇数セットが終了後、チェンジコートをしており、バレーボールでも、本当に毎回セットの終了後チェンジコートが必要かどうか疑問である。現在のコート環境からみて、一方のコートがプレイに有利に左右するとはとても思われず、テニス競技方式の1, 3セット終了後チェンジコートするか、2セット終了後のみチェンジコートするか、時間の短縮にもなり、毎回のチェンジコートは必要ないのではないかと思われた。

(c) 試合時間の短縮について

スティビッツ¹⁾案、島津ら²⁾案、西脇³⁾案、それに本大会方式の25分併用案、トローレ案⁴⁾等があるが、1896年に誕生したバレーボールは、サービスポイント制で開始されており、世界のバレーボールは長年その方式になじんできた歴史があり、全セット、ラリーポイント案が受け入れられるであろうか、やや疑問な点も見受けられた。本大会方式の25分併用案も少し試合時間の短縮となってはいたが、セットを終了するために多くの要素があり複雑で、単純でない所がやや問題と思えた。併用制を除いて、サービスポイント制か、ラリーポイント制かのどちらかで試合時間の短縮をした方が良いようにも思えた。たとえ併用制を用いたとしても、男女同一の時間は問題で、時間差をおき、男子は30分制、女子は25分制とするのも一案かと思われた。

%)であった。90分以内に半数以上の試合が終了していた。81分から90分までの試合は0試合で、91分以上の試合は6試合であったが、全試合110分までには終了していた。80分までのやや短い試合か、91分から110分までのやや長い試合かのどちらかの傾向がみられた。1セット25分以内、ラリー数0の総セット数(36セット)がセット全体の70.6%を占めていたのが影響しているものと思われた。

総セットの所要時間が長かった試合

109分; 16日-CUB: CHN (3-2)

108分; 14日-JPN: KOR (3-1)

103分; 14日-CUB: BRA (3-1)

総セットの所要時間が90分以内の試合は、男子チームでは33.3%に過ぎなかったのに対して女子チームでは60.0%を占めていた。男女で同一のルールを適用し、男子の試合を90分前後とすると、女子の試合は今以上に短くなり、ルールを作成する上で最も困難な問題であると思われた。

90分以内と90分以上のセットの比率を男子では4対6、女子では6.5対3.5程度に成らざるを得ないのではないかと思われた。

5 問 題 点

(a) タイムアウト

5点および10点の得点時にタイムアウトが施行されているが、選手の疲労度を配慮してのタイムアウトであった。今試合の1セットで長い所要時間を要したのは、男子チームでは、19日; NED: AUS-第1セット-26: 24-38分, 17日; JPN: NED-第2セット-24: 22-35分, 女子チームでは、16日; RUS: JPN-第3セット-27: 25-35分であった。多くのセット男子チームでは30分前後、女子チームでは25分前後で、1セットを終了しており、以前の様な、長い所要時間は要さないで、5点および10点の得点時にタイムアウトが本当に必要かどうか、再検討が必要と思われた。現行では、コマーシャルタイムとなっている感が大である。

男子チームでは、37セット、68.5%の割合でラリーポイントに入り、女子チームでは、10得

表4 男女チームのセット総所要時間数の内訳

**	**	Men		Women	
Group	Times(min.)	Tot. Set Times		Tot. Set Times	
1	51-60	1 (6.7%)	5 (33.3%)	0 (0.0%)	9 (60.0%)
2	61-70	1 (6.7%)		4 (26.7%)	
3	71-80	0 (0.0%)		5 (33.3%)	
4	81-90	3 (20.0%)		0 (0.0%)	
5	91-100	2 (13.3%)	10 (66.7%)	3 (20.0%)	6 (40.0%)
6	101-110	2 (13.3%)		3 (20.0%)	
7	111-120	3 (20.0%)		*	
8	121-130	1 (6.7%)		*	
9	131-140	2 (13.3%)		*	
10	141-150	*		*	
11	151-160	*		*	
12	161-170	*		*	

(a) 男子チームの特徴

総セットの所要時間が90分以内の試合は5試合(33.3%)で、90分以上の試合は10試合(66.7%)であった。91分から120分までの試合では7試合(46.7%)、81分から120分までの試合では10試合(66.7%)、51分から120分までの試合では12試合(80.0%)、他の3試合は121分以上であった。総セット所要時間では、81分から120分までが大半以上を占めていた。

総セットの所要時間が長かった試合

140分；22日-BRA：NED（3-2）

136分；17日-NED：JPN（3-2）

122分；22日-CHN：JPN（3-1）

120分；24日-CHN：AUS（3-2）

118分；19日-CUB：JPN（3-2）

(b) 女子チームの特徴

総セットの所要時間が90分以内の試合は9試合(60.0%)で、90分以上の試合は6試合(40.0%)

ら10回までのラリーポイントのセットとなっていた。

ラリーの回数があったセット（37セット）のみでは、Type 2で56.8%、Type 3で32.4%、両Typeで89.2%を占め、11ラリー以上のType 4（2セット、11日；BRA：JPN-第2セット目-11ラリー、11日；BRA：JPN-第3セット目-14ラリー）およびType 5（2セット、17日；NED：JPN-第2セット目-22ラリー、19日；NED：AUS-第1セット目-30ラリー）の割合は、10.8%を占めるのみであった。

(b) 女子チームの特徴

Type 1のセット数は36セット（70.6%）、Type 2のセット数は13セット（25.5%）、Type 3のセット数は1セット（2.0%）、Type 4のセット数は0セット（0.0%）、Type 5のセット数は1セット（2.0%）であった。Type 1の0回のラリーの回数のセット数が総セット数の70.6%を占め、最も多い割合を示した。次いでType 2の1-5回のラリー数のセットが25.5%を示していた。またType 3（14日；JPN：KOR-第3セット目-7ラリー）とType 5（16日；RUS：JPN-第2セット目-24ラリー）の両Typeは各々1セットであった。

ラリーの回数があったセット（15セット）のみでは、Type 2で86.7%とセットのほとんどを占め、Type 3とType 5では各々6.7%に過ぎなかった。

男子チームでは1-10回のラリーのあったセット数が、61.1%を占めたのに対して、女子チームでは、0回のラリーのセット数が70.6%を占め、ラリーがあっても1-5回（25.5%）で、Type 1とType 2で、95.5%を占めていた。

4 各試合における総セット所要時間数

男女各々15試合において、各試合のセットに要した総セット所要時間数を表4に示した。総セット所要時間数（分）を10分間隔で、Group 1（51-60）、Group 2（61-70）以下同様に、Group 12（161-170）まで、12のGroupに区分した。

であった。

ラリーポイントに至ったセットの有無では、有るが15セット (29.4%)、無いが36セット (70.6%) で、およそ3対7の割合であった。

①、②の各経過時点のどこかで敗けていて、セットを勝利できた割合は、男子チームではおよそ20%に対して、女子チームではわずか6%に過ぎず、女子チームでの逆転はなかなか困難であると思われた。またラリーポイントに至ったセットの割合は、男子チームではおよそ70%に対して、女子チームではわずか30%に過ぎず、男子チームと女子チームの集団のチーム力の差が、やみられたものと思われた。

(3) 25分経過後のラリーポイントの回数

前述の(2)でラリーポイントになったセットの割合を示したが、どの程度の回数であったかを表3に示し、Type 1は0回、Type 2は1回-5回、Type 3は6回-10回、Type 4は11回-20回、Type 5は21回-30回とした。また各セットは第1セットから第4セットまでとし、男子では54セット、女子では51セットを対象とした。

表3 男女チームの25分経過後のラリー回数の内訳

**	**	Men (1st-4th set)		Women (1st-4th set)	
Type	Rally	54 set	37 set	51 set	15 set
Type 1	OR	17 (31.5%)	*	36 (70.6%)	*
Type 2	1 - 5 R	21 (38.9%)	21 (56.8%)	13 (25.5%)	13 (86.7%)
Type 3	6 - 10R	12 (22.2%)	12 (32.4%)	1 (2.0%)	1 (6.7%)
Type 4	11 - 20R	2 (3.7%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
Type 5	21 - 30R	2 (3.7%)	2 (5.4%)	1 (2.0%)	1 (6.7%)

(a) 男子チームの特徴

Type 1のセット数は17セット (31.5%)、Type 2のセット数は21セット (38.9%)、Type 3のセット数は12セット (22.2%)、Type 4のセット数は2セット (3.7%)、Type 5のセット数も2セット (3.7%)であった。Type 2の1-5回のラリーの回数のセット数が総セット数の38.9%を占め、最も多い割合を示した。次いでType 1の0回が31.5%を示していた。またType 2とType 3の両セット数では、33セットとなり総セット数の61.1%を占め、半数以上のセットで、1回か

25分経過時ですでにセットが終了していたのは、Type 1 の17セット（31.5%）で、Type 2 はみられなかった。25分経過以降時、W-W-Wの Type 3 は21セット（38.9%）で、各Type のなかでも最も多いセット数であった。またW=-Wの Type 4 は2セット（3.7%）、25分経過時でまだ10得点に至っていないW*-Wの Type 9 は3セット（5.6%）（22日；CHN：JPN-第3セット目、22日；BRA：NED-第1セット目、24日；BRA：JPN-第2セット目）であった。上記の①、②、③の各経過時点で、同点を含めて、勝っていて、セットを勝利したまでの経過の総セット数（Type 1, Type 3, Type 4, Type 9）は、43セットで79.6%を占めていた。一方①、②の各経過時点のどこかで敗けていて、セットを勝利したのは、Type 5（1セット、1.9%）、Type 6（6セット、11.1%）、Type 7（4セット、7.4%）で、総セット数は11セットで20.4%を占めていた。またType 8 の両経過時点で敗けていて、セットを勝利したのは0セットであった。

ラリーポイントに至ったセットの有無では、有るが37セット（68.5%）、無いが17セット（31.5%）で、およそ7対3の割合であった。

(b) 女子チームの特徴

Type 1；W-Wは35セット（68.7%）、

Type 2；L-Wは1セット（2.0%）、

Type 3；W-W-Wは13セット（25.5%）、

Type 6；L-W-Wは1セット（2.0%）、

Type 8；L-L-Wは1セット（2.0%）、

Type 4, Type 5, Type 7, Type 9；各々0セット（0.0%）、

25分経過時ですでにセットが終了していたのは、Type 1 の35セット（68.7%）で、各Type のなかでも最も多いセット数であった。25分経過以降時、W-W-Wの Type 3 は13セット（25.5%）であった。①、②、③の各経過時点で、同点を含めて、勝っていて、セットを勝利したまでの経過の総セット数（Type 1, Type 3）は、48セットで94.4%を占めていた。一方①、②の各経過時点のどこかで敗けていて、セットを勝利したのは、Type 2（1セット、2.0%、23日；RUS：KOR-第2セット目）、Type 6（1セット、2.0%、14日；CUB：BRA-第1セット目）、Type 8（1セット、2.0%、16日；RUS：JPN-第3セット目）で、総セット数は3セットで5.9%を占めたのみであった。またType 4, Type 5, Type 7, Type 9 でセットを勝利したのは各々0セット

トから第4セットまでとし、男子では54セット、女子では51セットを対象とした。

表2 男女チームの取得セットの内訳

Type	P=10	T<25	T>25	Men (1st-4th set)		Women (1st-4th set)	
Type 1	W	W	*	17 (31.5%)	17 (31.5%)	35 (68.7%)	36 (70.6%)
Type 2	L	W	*	0 (0.0%)		1 (2.0%)	
Type 3	W	W	W	21 (38.9%)	37 (68.5%)	13 (25.5%)	15 (29.4%)
Type 4	W	=	W	2 (3.7%)		0 (0.0%)	
Type 5	W	L	W	1 (1.9%)		0 (0.0%)	
Type 6	L	W	W	6 (11.1%)		1 (2.0%)	
Type 7	L	=	W	4 (7.4%)		0 (0.0%)	
Type 8	L	L	W	0 (0.0%)		1 (2.0%)	
Type 9	W	*	W	3 (5.6%)		0 (0.0%)	
**	Total			54 set		51 set	

- ①「10得点経過時」で勝っていたか、敗けていたか。
 ②「25分経過時」で勝っていたか、敗けていたか。
 ③「25分経過以降時」すでにセット終了か、ラリーポイントになっていたか。
 W；勝っている時，勝った時
 L；敗けている時
 =；同点の時
 *；セット終了時，25分経過時でまだ10得点に至っていない時
 上記の経過から，Type 1 から Type 9 までに区分した。

(a) 男子チームの特徴

- Type 1；W-Wは17セット (31.5%)，
 Type 2；L-Wは0セット (0.0%)，
 Type 3；W-W-Wは21セット (38.9%)，
 Type 4；W--Wは2セット (3.7%)，
 Type 5；W-L-Wは1セット (1.9%)，
 Type 6；L-W-Wは6セット (11.1%)，
 Type 7；W--Wは4セット (7.4%)，
 Type 8；L-L-Wは0セット (0.0%)，
 Type 9；W*-Wは3セット (5.6%)，

2の試合数が4試合（26.7%）で、4セット以上の試合数が9試合で60.0%を占めていた。4セットまでの試合の総セット数は54セット、5セットまでの総試合セット数は58セットであった。1セットの得点の比較では、4セットまでの試合で、10得点未満のセット数が22セット（40.7%）、10得点以上のセット数が32セット（59.3%）で、敗けたチームでも、各セットの60%の割合で10得点以上の得点をしていた。

5セット目の得点の比較では、4試合のうち、10得点未満のセット数が1セット（25.0%）、10得点以上のセット数が3セット（75.0%）で、1試合を除いて10得点以上のセットであった。3対0の試合数とそれ以上の試合数、10得点未満のセット数と10得点以上のセット数の比率は、およそ男子チームでは4対6の割合で、チーム力の差が極端に離れたチーム集団ではなかった。

(b) 女子チームの特徴

15試合のうち、3対0の試合数が9試合（60.0%）、3対1の試合数が4試合（26.7%）、3対2の試合数が2試合（13.3%）で、4セット以上の試合数が6試合で40.0%を占めていた。4セットまでの試合の総セット数は51セット、5セットまでの総試合セット数は53セットであった。

1セットの得点の比較では、4セットまでの試合で、10得点未満のセット数が34セット（66.7%）、10得点以上のセット数が17セット（33.3%）で、敗けたチームは、各セットの67%の割合で10得点未満の得点であった。5セット目の得点の比較では、2試合のうち、10得点未満のセット数は無く、10得点以上のセット数が2セットであった。3対0の試合数とそれ以上の試合数の比率は、女子チームでは6対4の割合、10得点未満のセット数と10得点以上のセット数の比率は、同様におよそ7対3の割合で、チーム力の差が極端ではないが、男子チームと比較するとやや大きな差が見られたチーム集団であった。

現状からみても、近い将来を見通しても、今後どの国際大会を開催しても、参加する男子チームと女子チームの集団のチーム力の差は、男子チームに比べて、女子チームの方が力の差は大きく、上述のような傾向が今後も見られるものと思われた。

(2) 勝利セットの経過

勝利セットの経過を表2に示したが、その経過を次の3時点で見してみた。尚各セットは第1セッ

みであったからである。

(2) 調査項目(男女チーム共通)

(a)男子チーム，女子チーム共に6チームの総当りの試合であったので，各々15試合を対象とした。

(b)25分以内のセットおよび25分以上のセットの各セット数，25分終了以後のラリー回数，各セットの所要時間，各セットの得点の各調査をした。

(c)10得点時の相手チームの得点，25分時の両チームの得点，25分後のセット終了時の得点の調査により，セットの取得の傾向を調査した。

3 研究結果および考察

(1) 試合におけるセットカウントおよび得点について

試合終了時におけるセットカウントと得点については表1に示した。

(a) 男子チームの特徴

表1 男女チームの取得セット数と取得得点数の内訳

***	Men	Women
Match	15	15
Set : 3-0	6 (40.0%)	9 (60.0%)
Set : 3-1	5 (33.3%)	4 (26.7%)
Set : 3-2	4 (26.7%)	2 (13.3%)
Point < 10 (1st-4th)	22 set (40.7%)	34 set (66.7%)
Point => 10 (1st-4t)	32 set (59.3%)	17 set (33.3%)
Point < 10 (5th)	1 set (25.0%)	0 set (0.0%)
Point => 10 (5th)	3 set (75.0%)	2 set (100.0%)
Total	54 set (1st-4th)	51 set (1st-4th)
**	4 set (5th)	2 set (5th)
**	58 set	53 set

15試合のうち，3対0の試合数が6試合(40.0%)，3対1の試合数が5試合(33.3%)，3対

ここにきて「試合時間の短縮」が再浮上してきたのは、情報網を通して(主にテレビジョン放映)、より以上にバレーボールをスポーツ種目の一つとして、世界の人々にアピールすることである。そのためには、試合時間を90分で納めたいのが、今回の「試合時間の短縮」の最大の目的となった。その改正のためのテストケースとして、「25分併用ルール」を採用して、'97年11月に、男女両チームの国際試合、ワールド・グランド・チャンピオンズ・カップ大会が日本で開催された。「25分併用ルール」が実際の試合において、試合時間の短縮にどのように影響していたか、また国際審判員の立場として、ルールが改正されれば、それに適応した審判方法の問題点もあり、以前原田⁵⁾が審判について報告したのも参考にして、両面から検討したものである。バレーボールの勝敗を左右する要因については、藤原⁶⁾により、ラリーポイント制については、相良⁷⁾により報告されている。

2 研究方法

(1) 大会期日、25分併用ルールおよび参加チーム

大会の開催期日は、女子チームが1997年(平成9)11月14日から23日迄、男子チームが同年11月15日から24日迄、会場は大阪、広島、東京、試合は1日3試合、女子チーム、男子チームの順で隔日であった。

「25分併用ルール」の主な点は、「第1セットから第4セットまでには、25分(25分59秒)を制限とし、25分になってもセットが終了しない場合は、ラリーポイント・システムに移行する。ジュースの場合でもセット終了には2点差が必要である。」また「20分経過後のタイムアウト時は時計を止める。(セット開始から20分までの、テクニカル・タイムアウト、メンバーチェンジ等の時間は20分の中に含める。)であった。

女子の参加チームは、日本、ロシア、キューバ、ブラジル、中国、韓国の6チーム、同様に男子の参加チームは、日本、ブラジル、オランダ、キューバ、中国、オーストラリアの6チームであった。女子チームでは、世界のトップレベルのチームの参加であったが、男子チームでは、イタリア、ロシアの両チームの不参加が残念である。ヨーロッパ代表が1チーム(オランダ)の

finished within 25 minutes. If the combined scoring system is to be introduced, it may be better to set different time limits for the men's and women's teams. The set time limit of 25 minutes would be adequate for women's teams, but an extension of the limit to 30 minutes would probably be more appropriate for the men's teams. However, from the standpoint of the international judges, the combined scoring system could be complicated since several different elements would have to be taken into account to end a set. A more appropriate solution would be to simplify the system by selecting only the service point system or rally point system instead of the combined one. The rally point system seems to be the most suitable for adaptation in the future.

1 はじめに

バレーボール競技も、1964年（昭和39）の第18回オリンピック東京大会以来多くのルールの改正がなされてきたが、その改正が日本チームにとって不利な場合と、あまり影響のない場合が見られた。主なものは、'64年の「ブロック時のオーバーネットが可能」、'76年「ブロックでコンタクトしても、その後3回のコンタクトが可能」、'86年「ダブルコンタクトの基準の緩和」、'88年「第5セットにラリーポイント制の導入」、'92年「膝上でのコンタクトが可能」、'94年「膝下でのコンタクトが可能」、同年「サービスゾーンを3 mから、エンドライン幅の9 mに延長」、'96年「ボールの気圧を25%減圧し、ボールのスピードを落とし、レシーブをより可能に」等であった。日本チームにとって現在までに最も不利なルールの改正は、'64年の「ブロック時のオーバーネットが可能」になった改正で、身長がさほど高くないチームにとっては、不利なルールの改正であったといえよう。このようにルールの改正は、チームにとって、嬉々交々であった。改正の歴史のなかで、現在浮上してきたのが、「試合時間の短縮」問題である。この試合時間の短縮問題は、以前にも話題となり、'74年にフランタ スティビッツ¹⁾ (Franta Stibitz) が提案した、L. N. R. S. 方式 (Limited Number of Rallies in Sets-System, 60ラリーで1セット終了) である。しかしこの方式は導入されず、'88年の第5セットにラリーポイント制の導入が、「試合時間の短縮」の改正の手始めとなった。その他島津ら²⁾ の現方式で11得点案、西脇³⁾ が報告した(財)日本バレーボール協会のラリーポイント案、デンマークのミカエル トローレ⁴⁾ (Mikael Trolle) のラリーポイント案 (21得点で前半と後半に分け、同点の場合は7ポイントのタイブレイクとする。) 等がある。

バレーボール競技における25分制に関する研究

原 田 智

抄 録

国際男女バレーボール試合，ワールド・グランド・チャンピオンズカップ大会が，「25分併用制」のテストマッチとして1997年11月に日本で開催された。男子のチームは多くのセットにおいて25分以内で終了せず，その後のラリーポイント制となりセットを終了していた。それに対して女子のチームは多くのセットにおいて25分以内で終了していた。もし併用制を採用するなら，女子チームはこの方式で良いとしても，男子チームは，「30分併用制」とし，男子チームと女子チームでは，セットに時間の差があった方が良いと思われた。一方国際審判員の立場からすると，この併用制では，セットを終了するのに複数の要素が含まれており，単純化した方が良く，サービスポイント制か，ラリーポイント制，のいずれかの方が良いように思えた。今後はラリーポイント制となる可能性が高いと思われた。

キーワード；バレーボール，25分時間制，ラリーポイント制，サービスポイント制

Key Word : Volleyball, 25 timed system, Rally point system,
Service point system

Abstract

At the 1997 international men's & women's volleyball World Grand Champions Cup held last November in Japan, a new scoring system combining the "service point system" and the "set with time limit system (25-timed system)" was tested for the first time. In most of the matches between men's teams, the sets went beyond 25minutes and were continued using the rally point system. In contrast, in the matches between women's teams, the sets usually were